

グループ企画展
井澤由花子、新藤杏子、長坂絵夢、吉川菜津乃



「それぞれの30/own thirty」

2012年11月30日(金)-12月9日(日)

OWN
30
それぞれの30

関係者各位

平素お世話になっております。

若手作家4人によるグループ企画展「それぞれの30/own thirty」の開催をご案内いたします。

参加作家の「生を受けてから経過した」時間—「30」を鍵に、「それぞれ」が積み重ねた世界観を自由に発揮する作品を展開。また、同時代共通のテーマを探り、いわば同時代の風景を表現することを目指します。

多様な形態の平面作品を制作する4人の作家が、ギャラリースペースに加え、ラウンジ及びスタジオスペースを利用して展示を構成する予定です。

全作家が遊工房で初の展示となる本展を、どうぞご高覧下さい。

遊工房アートスペース



[展覧会情報]

展覧会名: グループ企画展 「それぞれの30/own thirty」

会期: 2012年11月30日(金)ー12月9日(土)

オープニングイベント: 2012年12月1日(土)

開廊時間: 12時 - 19時(最終日 17時まで)

休廊日: 月・火曜

会場: 遊工房アートスペースギャラリー

問い合わせ: 〒167-0041 杉並区善福寺3-2-10

(Tel)03-5930-5009, (Fax)03-3399-7549, (Email) info@youkobo.co.jp

担当: 村田弘子、進藤詩子

[交通のご案内]

公共交通機関:

- ・JR中央総武線「西荻窪」北口バス2番「上石神井」「大泉学園」行き「善福寺」下車すぐ
 - ・JR中央総武線・地下鉄丸ノ内線「荻窪」北口バス0番「武蔵関駅」「北裏」行き「善福寺」下車徒歩一分
- 自動車: 青梅街道「善福寺三丁目」交差点南、桃井第四小学校北隣

[企画ステイトメント]

30という数字が表すのは年数のことで、私達4人が生を享けてからの時間の経過を意味している。

4人が生まれたのは1982～1984年東京。

戦後約40年、小さい頃にバブルの好景気を迎え、中学、高校生の頃には携帯電話、

パソコンの普及が一気に進み、大学へ進学する頃には世紀は21世紀へ変化し、9・11が起きた。

大学を卒業して社会に出てからは、リーマンショック、さらには2011年3・11、

東北地方の巨大地震を目の当たりにし、隣国との関係も不穏な現在に至る。

そのような月日を生きてきた我々4人は友人を介して出会い、

今回初めて接点を持つことになった美術に関わりを持つ女性達である。

それぞれがその時間経過の中で育んできた創作を遊工房にて展開することで、

共有してきたこの30年の時代の風景を描くことはできまいか、と目論み、

作家同士で4人に出来る仕事、展示の成す意味を考えながら発表に向かうことになった。

また、もとより明確な共通の意識が無い4人の中にある緩やかに繋がり合う関係性を保持しながら、

個人的に積み重ねてきた世界観を自由に発揮できる状況で作品を展開することで、

4人の中にある同時代共通のテーマを探ってゆく試みとしてもこの展示を捉えている。

(企画者一同)

[作家紹介]

- 井澤由花子 -

<作家略歴>

1982年 東京生まれ。2005年多摩美術大学美術部絵画学科油画専攻卒業。

2012年個展「creation of your world」(ギャラリー椿)、「あたたかく湿った泥のようなもののなかから」(ギャラリー絵の具箱)、EXHIBITION

C-DEPOT 2012 TOKYO-YOKOHAMA(スパイラルホール)など。

<ステイトメント>

自身の経験をもとにして創作した風景や人物を水彩画で表現。

最近妊娠、出産時に描いたドローイングを元にして、胎内の水を感じさせる風景を水彩画で制作した、「creation of your world」シリーズを展開中。

100号を超えるパネルに水彩紙をはり、重ね塗りしない鮮やかな色彩で描いている。



- 新藤杏子 -

< 作家略歴 >

1982 東京生まれ。2007 多摩美術大学 大学院 美術研究領域 卒業。
2004 ~ 2008 東京ワンダーウォール 入選 2006、2008 シェル美術賞 入選
geisai taiwan#2 審査員賞受賞 / 台湾・台北 Young Artist Japan 2011 審査員
特別賞 / ラフォーレミュージアム六本木 2012 Gallery YUKI-SIS 個展
「Beautiful Life」。

< ステイトメント >

これまで私はアイコンの生き物の営み、生活の様をどこか物語めいた、現実感の無いものとして落とし込んできました。ふっと笑ってしまうようなキツクさを優先して引き出そうと考えていました。それは、これまでの生活が永遠に続くような、また何とも言えない安定の不安、緩やかに進むだけの死への不安から、その物語の非現実的な一瞬を落とし込みたいという思いから発されていたものでした。しかし様々な出来事によって、その考え方や作品の大きいテーマである「生活」「営み」は大きく揺るがされました。永遠に続くような安定などはありません。理不尽なもの、合理的なもの、私から失われ続けていたことに気がつきました。何気ない日常の営みが、様式に見え隠れする「死」「畏れ」とともに、混じり合い、お互いにたたずんでいて、当たり前にあるという事がどういふ事なのかを反芻する事が出来るように、書き留められればと思います。



- 長坂絵夢 -

< 作家略歴 >

1982 年東京生まれ。2005 年多摩美術大学美術学部工芸学科金属専攻卒業。
2011 年、2012 年 YOUNG ART TAIPEI (台北) 参加「新潮賞」受賞。
MY duo 展 (shonandai MY gallery) など、その他多数グループ展参加。

< ステイトメント >

これまでは主に鉄を素材に記憶・記録「working memory」をテーマに制作を続けてきました。素材の変容を用いて時間経過、それが作り上げるものというものを表現していました。入力・保持・出力というものが自分の脳内以外で簡易的に処理・管理が可能となった今、そういった記憶装置（メモリー）に依存する事で私たち自身の記憶の貯蔵能力が低下してきているのではと日々感じています。これも進化に伴う退化であり自然現象である、とここ最近では受け入れ始めている所ですが、少しそんな現象に抵抗したいとも思うのです。日常における制作はそんな抵抗と受容の繰り返しかもしれません。



- 吉川菜津乃 -

< 作家略歴 >

1984 年東京生まれ。2010 年金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科修士課程彫刻専攻修了。2009 年学生派遣ゲント王立美術アカデミー (ベルギー / 10月5日 ~ 11月27日)。
その他金沢、東京にて展覧会に参加。

< ステイトメント >

日常生活で見かける光景を描写しています。木彫を学んでいましたがコラージュに興味を持ってから複数の異素材を組み合わせる方法で作品化しています。立派なものがゴミに思えて、ゴミが立派に思えるような作品を作りたいと思っています。

